

令和7年度 総合職試験等からの 新規採用職員に対するアンケート

結果の概要

調査対象者 令和7年度初任行政研修を受講した職員 782人
有効回答数 767人(回収率 98.1%)(令和7年6月16日時点)

- ※1 本アンケートは、採用後3ヶ月程度経過時点で実施したもの
- ※2 各問のグラフ中の「N」は、それぞれの問に対する有効回答数

〈用語の説明〉

- ・「総合職試験等」とは、国家公務員採用試験総合職試験及び国家公務員採用総合職試験相当の試験(例:農林水産省獣医系技術職員を採用する試験)等をいう。
- ・「初任行政研修」とは、平成9年度に創設されたもので、人事院が、主として総合職試験に合格して新規採用された全府省の職員を対象に実施している研修である。

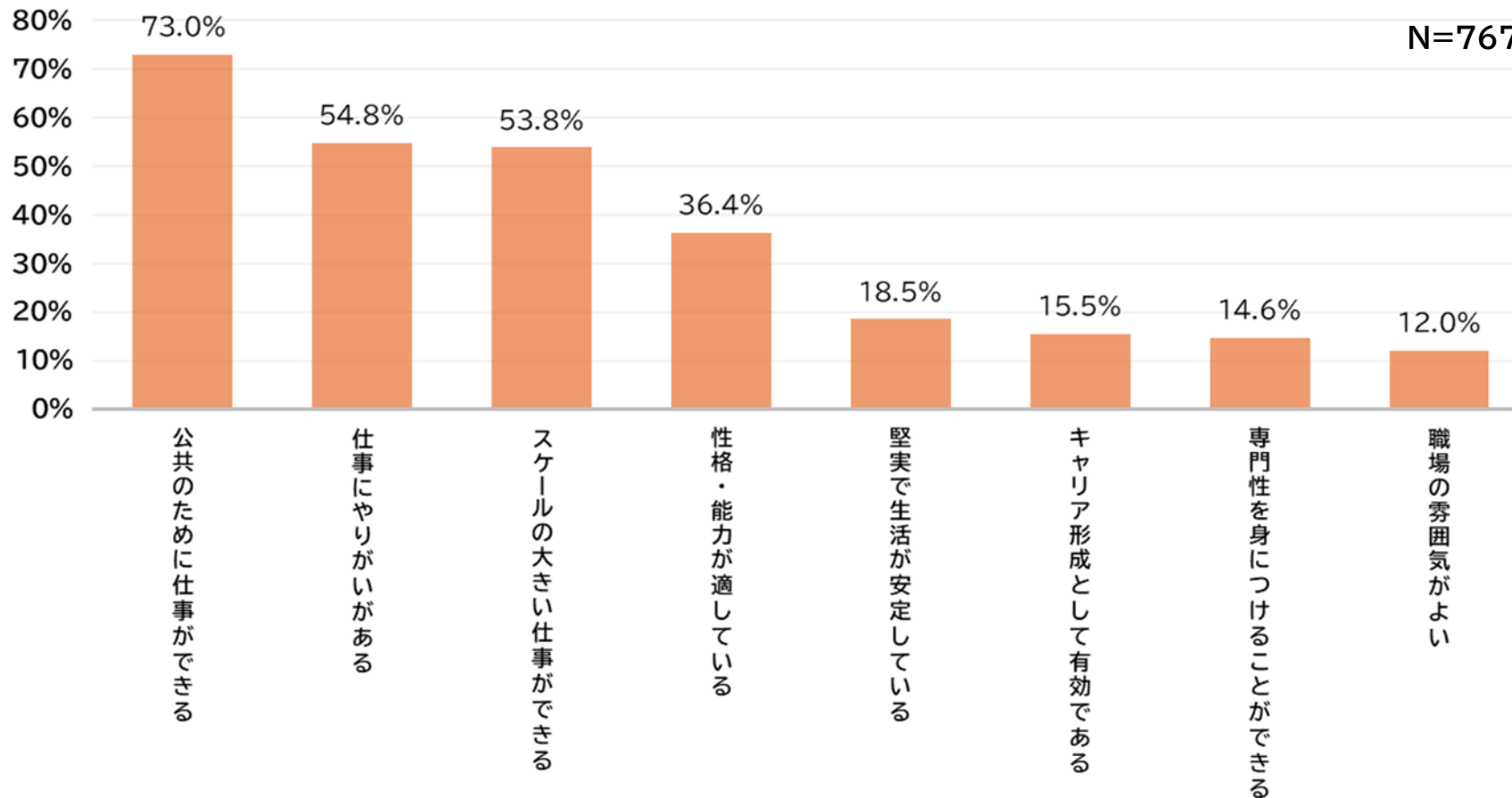
目次

1. 国家公務員になろうとした主な理由
2. 就職先として国家公務員を意識した時期
3. 就職先として国家公務員を意識したきっかけ
4. 採用された省庁以外での合格・内々定したもの
5. 内定を受けた民間企業の規模のうち、最も大きいもの
6. 周りの優秀な学生の進路
7. 周りの優秀な学生が国家公務員以外の就職先を選んだ決め手
8. どのようなタイプの上司の下で仕事したいか
9. 国際的な経験(留学・海外勤務など)への興味
10. 公務の魅力向上のために必要と考えられる取組

1. 国家公務員になろうとした主な理由(優先度の高い順に3つ選択) (上位8つ)

➤ 国家公務員を志望した理由は「公共のために仕事ができる」を優先したとの回答が最多。(73.0%)
「仕事にやりがいがある」(54.8%)、「スケールの大きい仕事ができる」(53.8%)が次いで多かった。

→ 志望理由として社会的な意義や影響力の大きさが魅力となっていることがわかる。

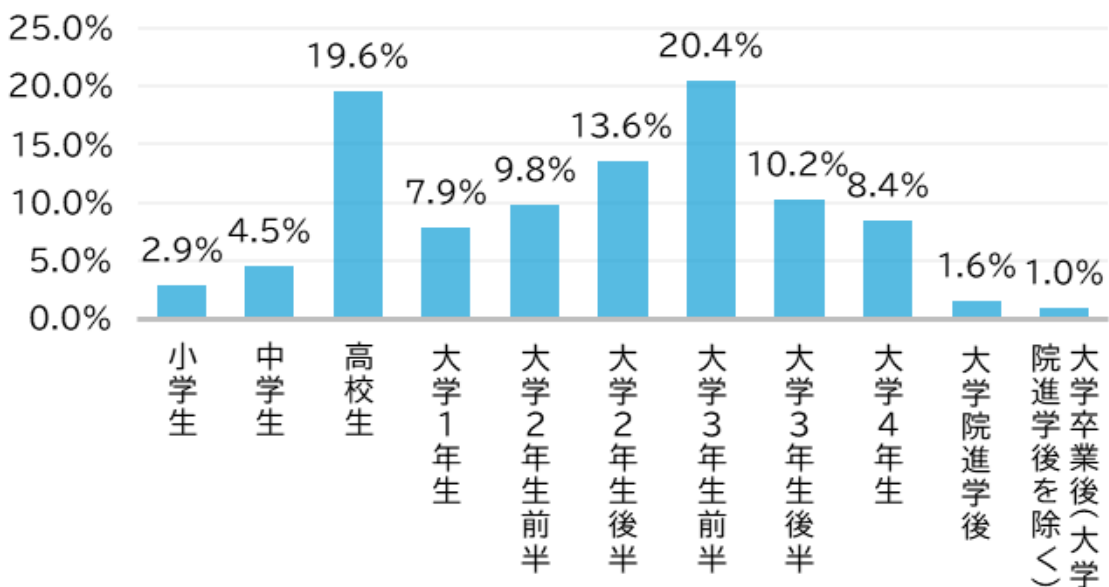


2. 就職先として国家公務員を具体的に意識した時期はいつ頃ですか。

- 総合職試験(大卒程度)では、高校生(19.6%)と大学3年生前半(20.4%)との回答が多数。
- 総合職試験(院卒者)では、大学院進学後(43.4%)との回答が最多。
→ 院卒者試験受験者をはじめとして就職に向けた進路選択の際に意識する者が中心であるが、高校生から将来の就職先として国家公務員を考える者も存在。

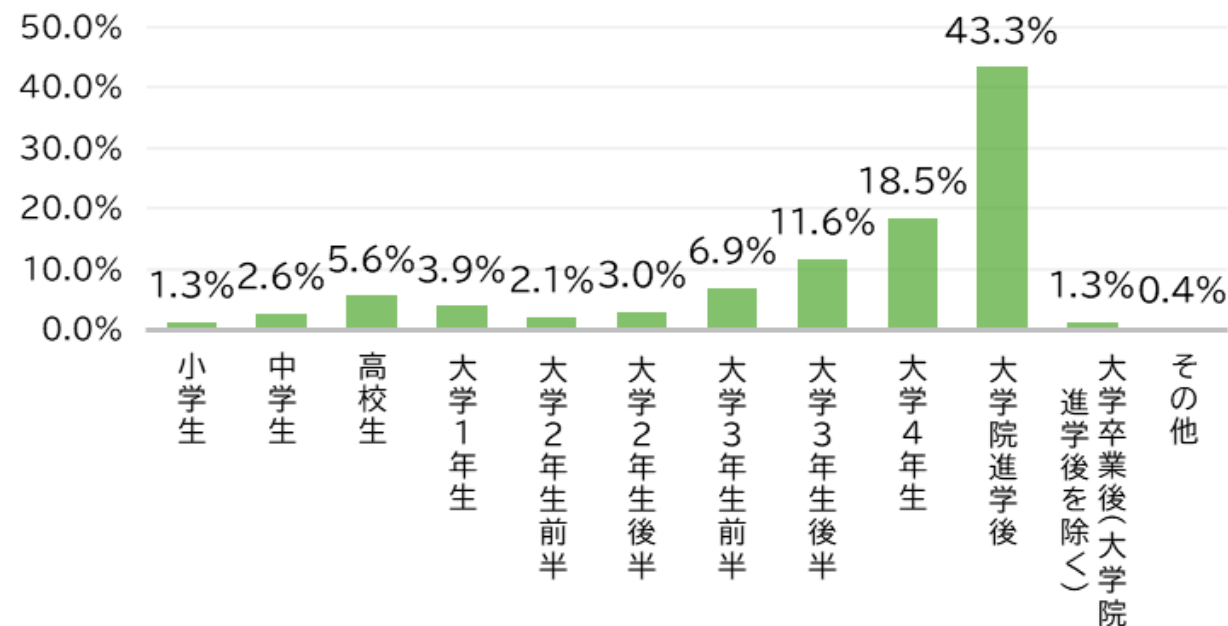
N=509

総合職試験大卒程度



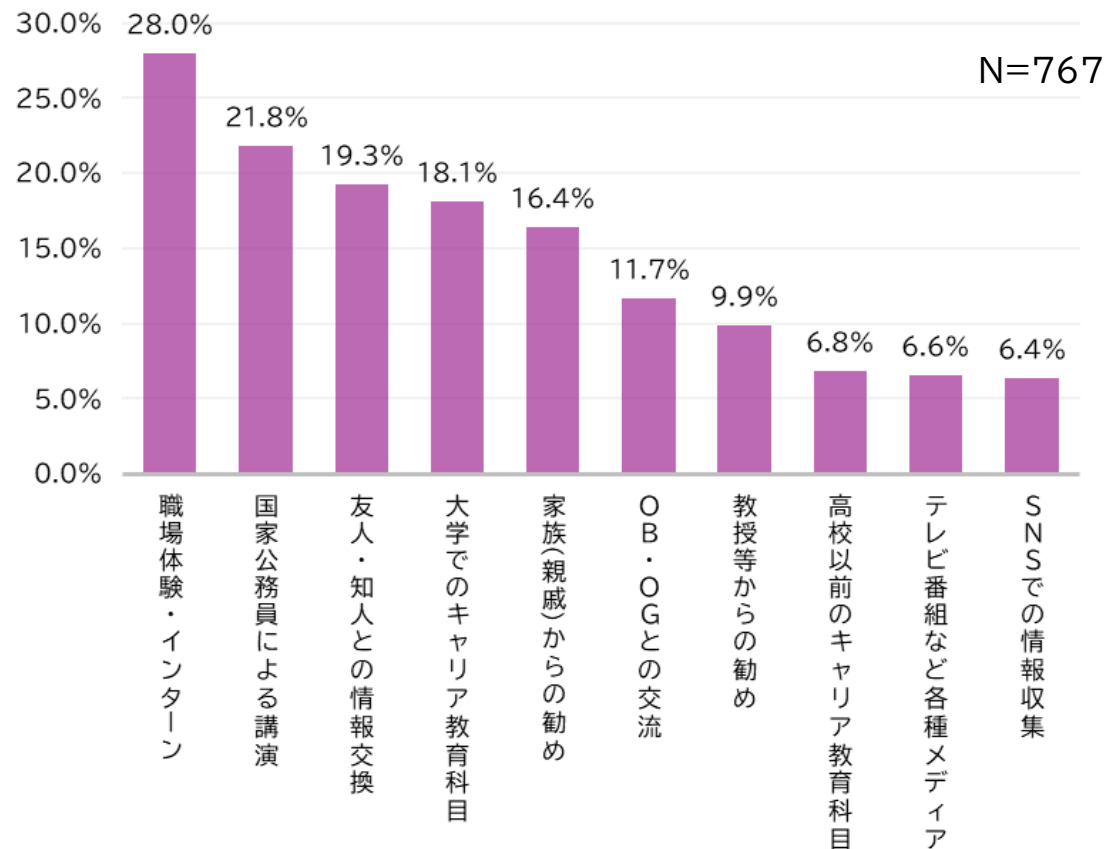
N=234

総合職試験院卒者



3. 就職先として国家公務員を意識したきっかけは何ですか。 (複数選択)

- 「職場体験・インターン」(28.0%)や「国家公務員による講演」(21.8%)などの具体的な仕事や職場を認識する機会や現職の職員から話を聞く機会が就職先として国家公務員を意識したきっかけとなったとする回答が多数。
- 職員から発信される仕事内容や職務経験に関する情報やインターンシップなどの具体的な経験に触れることで、国家公務員の業務を明確にイメージすることが職場選択の契機として重要。

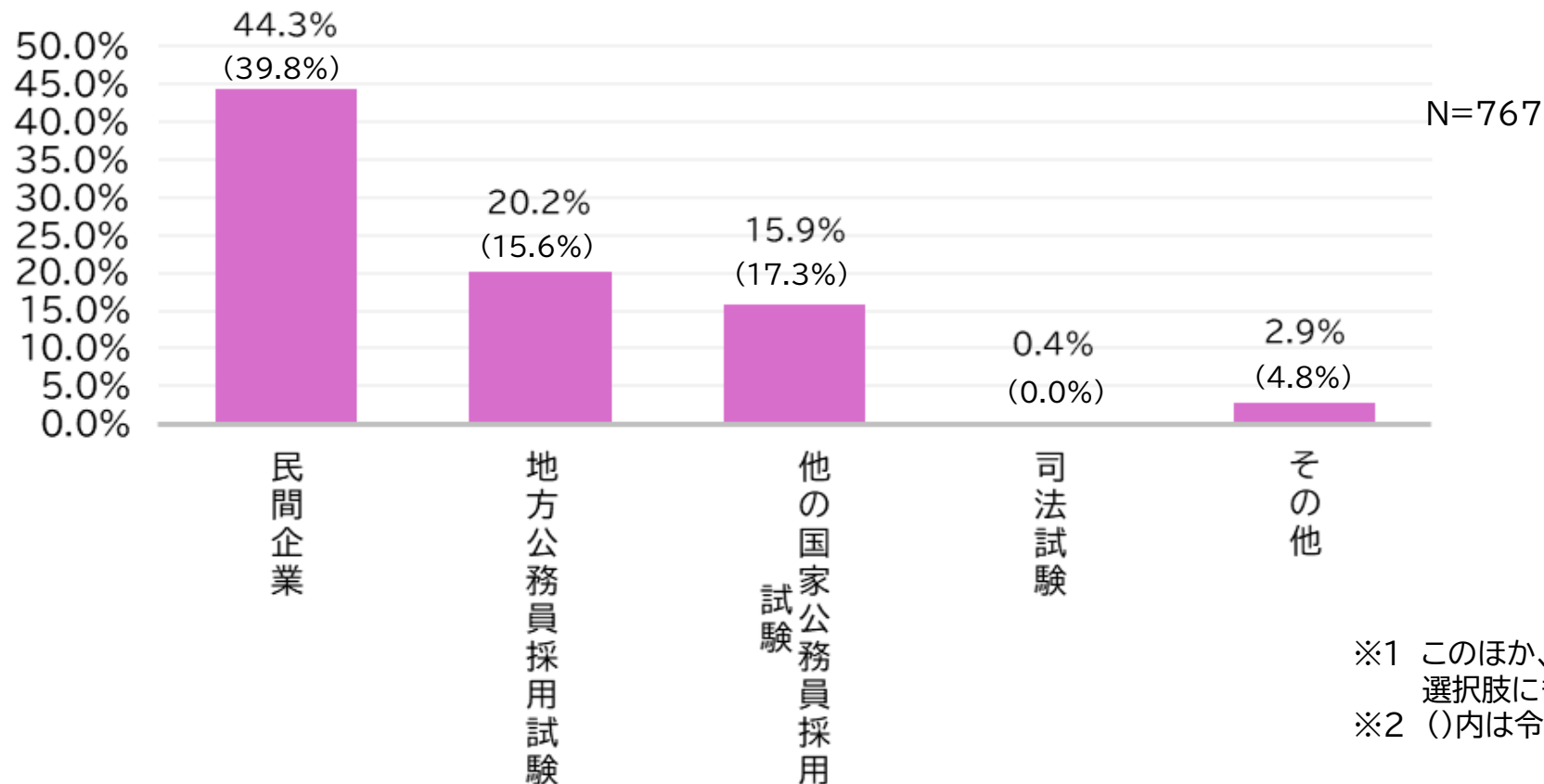


その他

- ・災害を経験したことや災害関連のニュースを見て社会の役に立ちたいと考えた
- ・大学で培った専門性を活かせること
- ・国際的な経験や留学を通して国における国際業務に関心を持った
- ・実際に国家公務員として働く親・友人等から話を聞いた

4. 採用された試験以外で合格又は内々定・内定したものはありますか。 (複数回答)

- 回答者全体のうち44.3%が「民間企業」の内々定を得ており、公務・民間の双方を就職先として検討したうえで国家公務員に就職。
- 「他の国家公務員採用試験」を受験し、合格又は内々定を得た」の回答割合は昨年と比べわずかに減少。
- 「地方公務員採用試験」を受験し、合格又は内々定を得た」の回答割合は昨年と比べ増加。
→ 総合職試験以外の複数の進路に向けた就職活動を並行して行い、進路の検討がなされている。

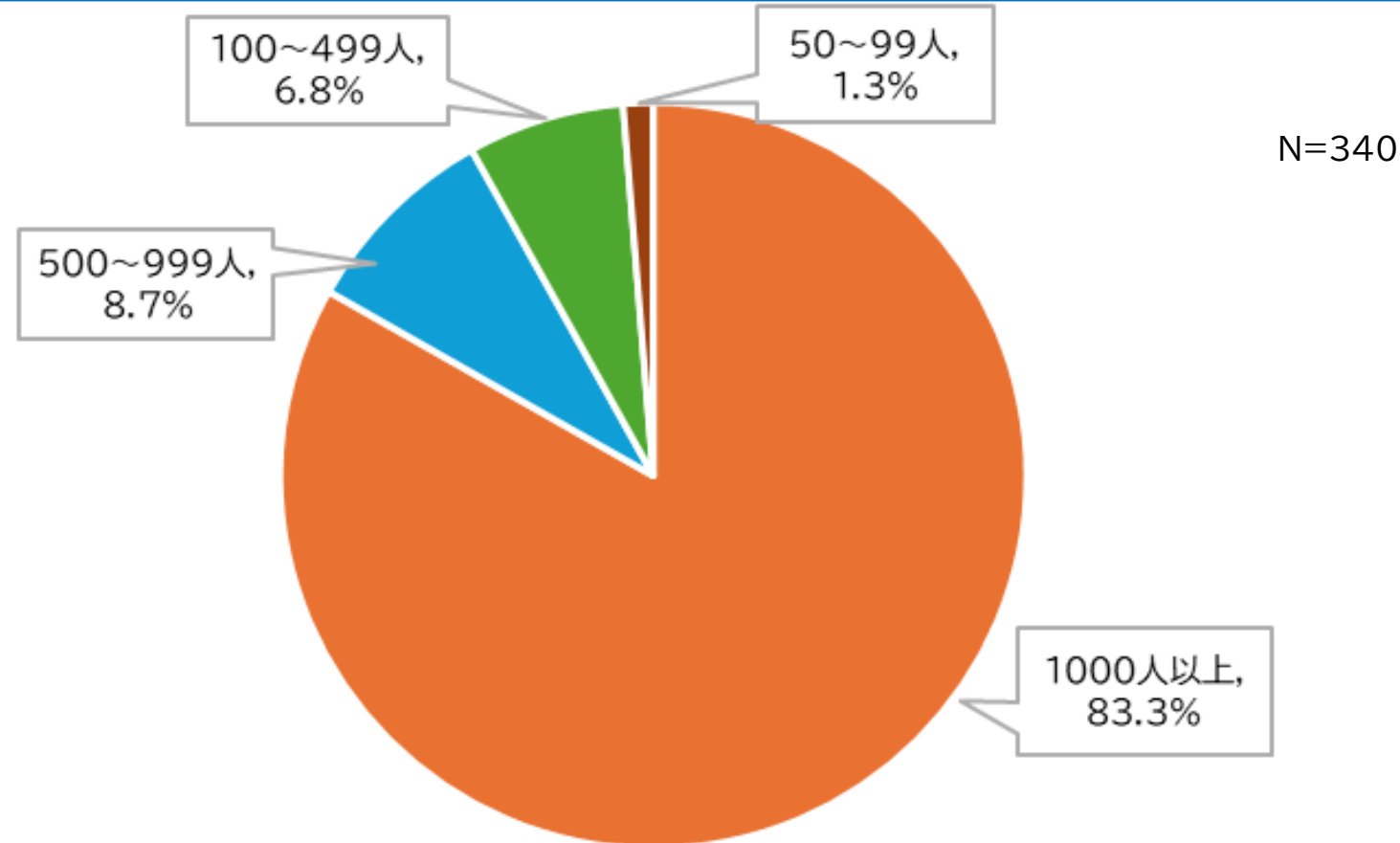


※1 このほか、33.0%の者がいずれの選択肢にも回答していない。

※2 ()内は令和6年度の数値(N=751)

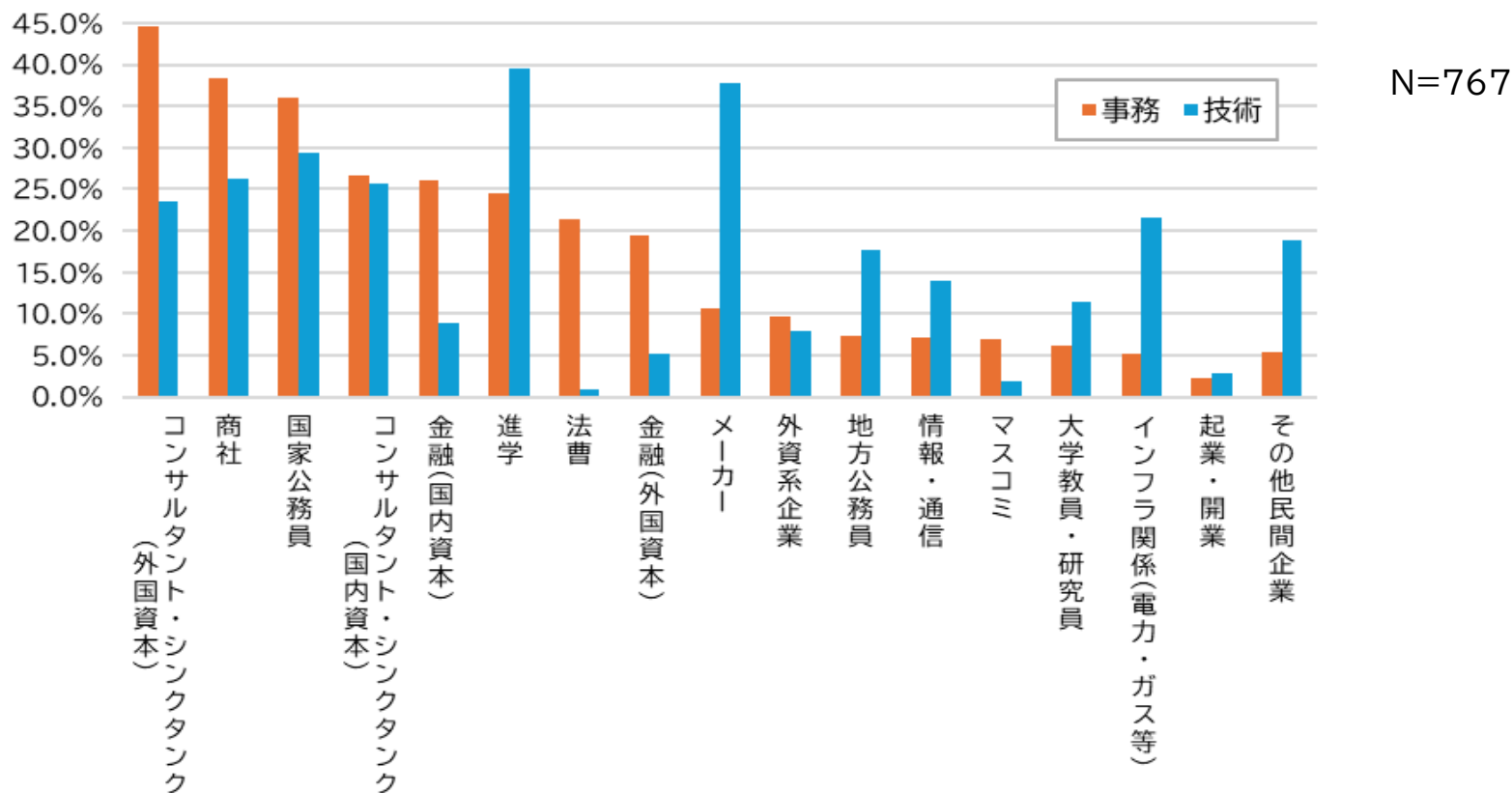
5. (問4で民間企業を選択した方) 内定を受けた民間企業の規模のうち、最も大きいもの

- 民間企業に内々定を受けた者の83.3%が企業規模は「1,000人以上」と回答。
- 企業規模「1,000人以上」と回答した者の主な内々定先企業の業種は、「コンサルタント・シンクタンク」「金融」「メーカー」。
→ 「コンサルタント・シンクタンク」「金融」「メーカー」が総合職採用者にとって主な併願先となっている。



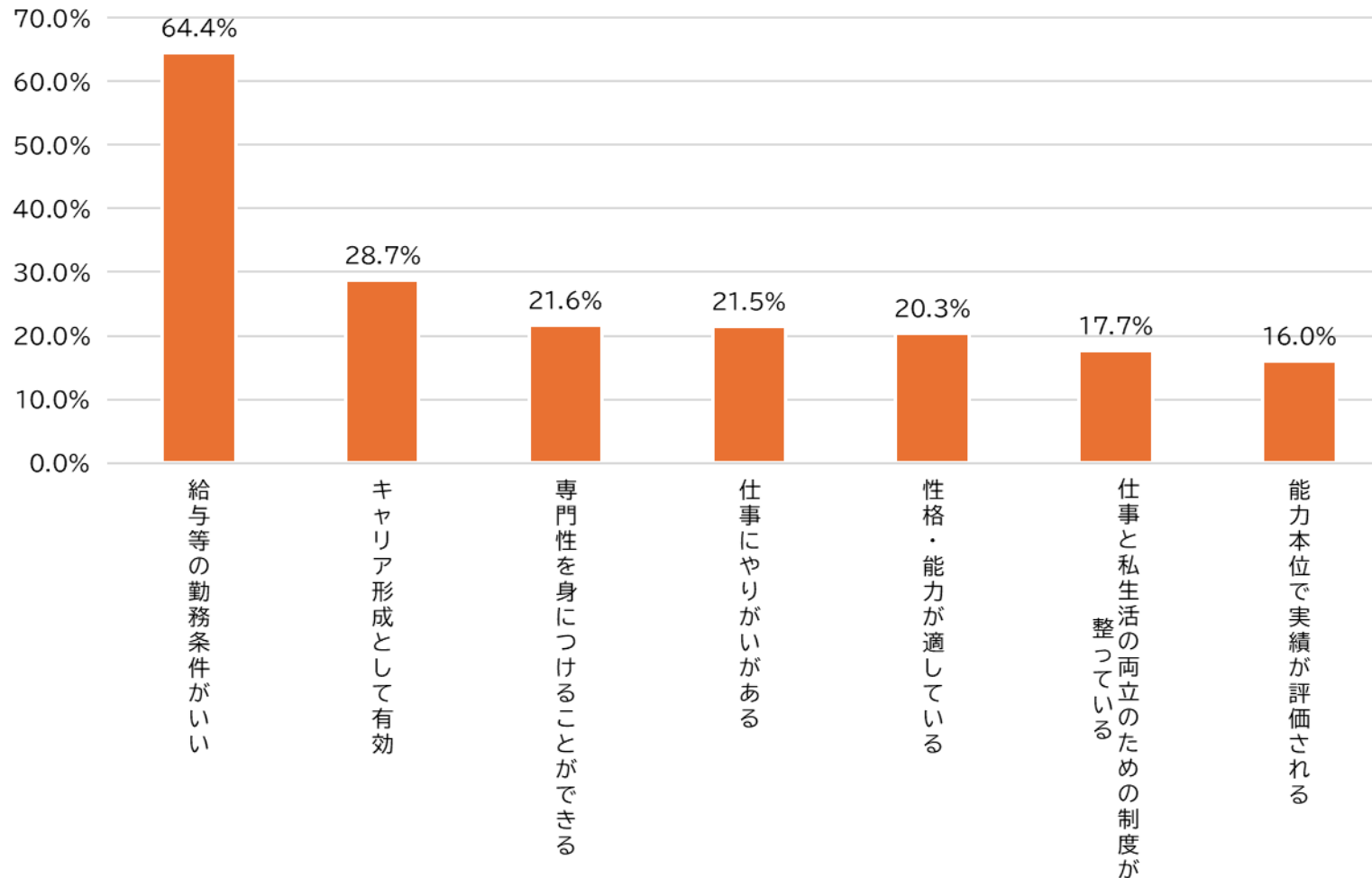
6. あなたの周りの優秀な学生はどのような進路を選びましたか。

- 事務系では、「コンサルタント・シンクタンク(外国資本)」や「商社」と回答している者が多く、これらの業種は、技術系でも上位に挙がっている。
- 技術系では、「進学」や「メーカー」という回答が最も多く、「インフラ関係(電力・ガス等)」、「地方公務員」、「情報通信」という回答が事務系と比べて多い。「金融(国内資本)」及び「金融(外国資本)」は事務系と比べて少ない。
- 事務系・技術系とも、「国家公務員」という回答が上位に挙げられている(いずれも3番目)。



7. 周りの優秀な学生が国家公務員以外を選んだ決め手はなんですか。 (優先度の高い順に3つ選択)

- 周りの優秀な学生が国家公務員以外の就職先を選んだ決め手は「給与等の勤務条件がよい」が64.4%で最多。
- 「キャリア形成として有効」「専門性を身につけることができる」といった経験・知識に関連した回答も一定数存在。



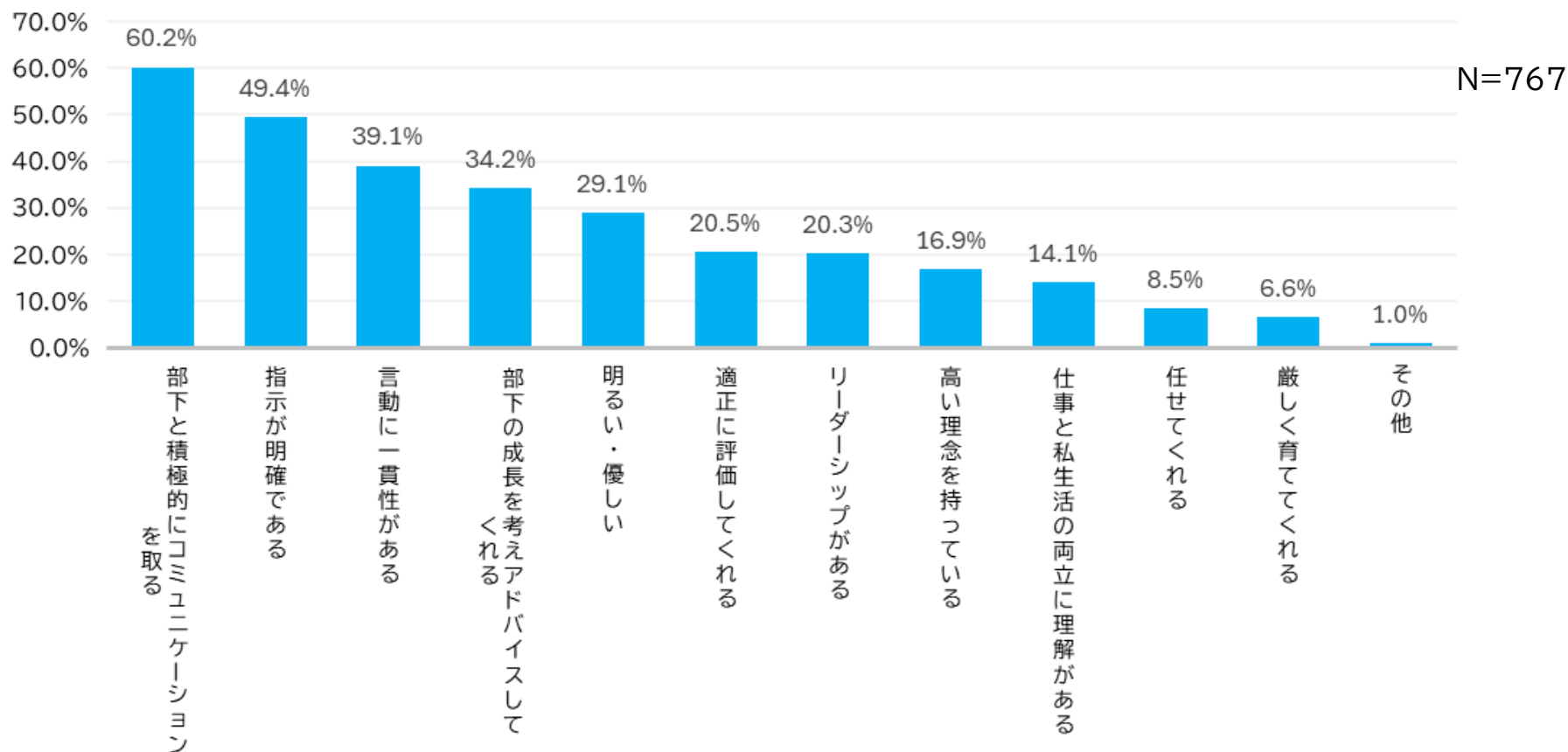
N=767

その他

- ・スケールの大きい仕事ができる
- ・昇進等に将来性がある
- ・転勤が少ない、地元で働ける 等

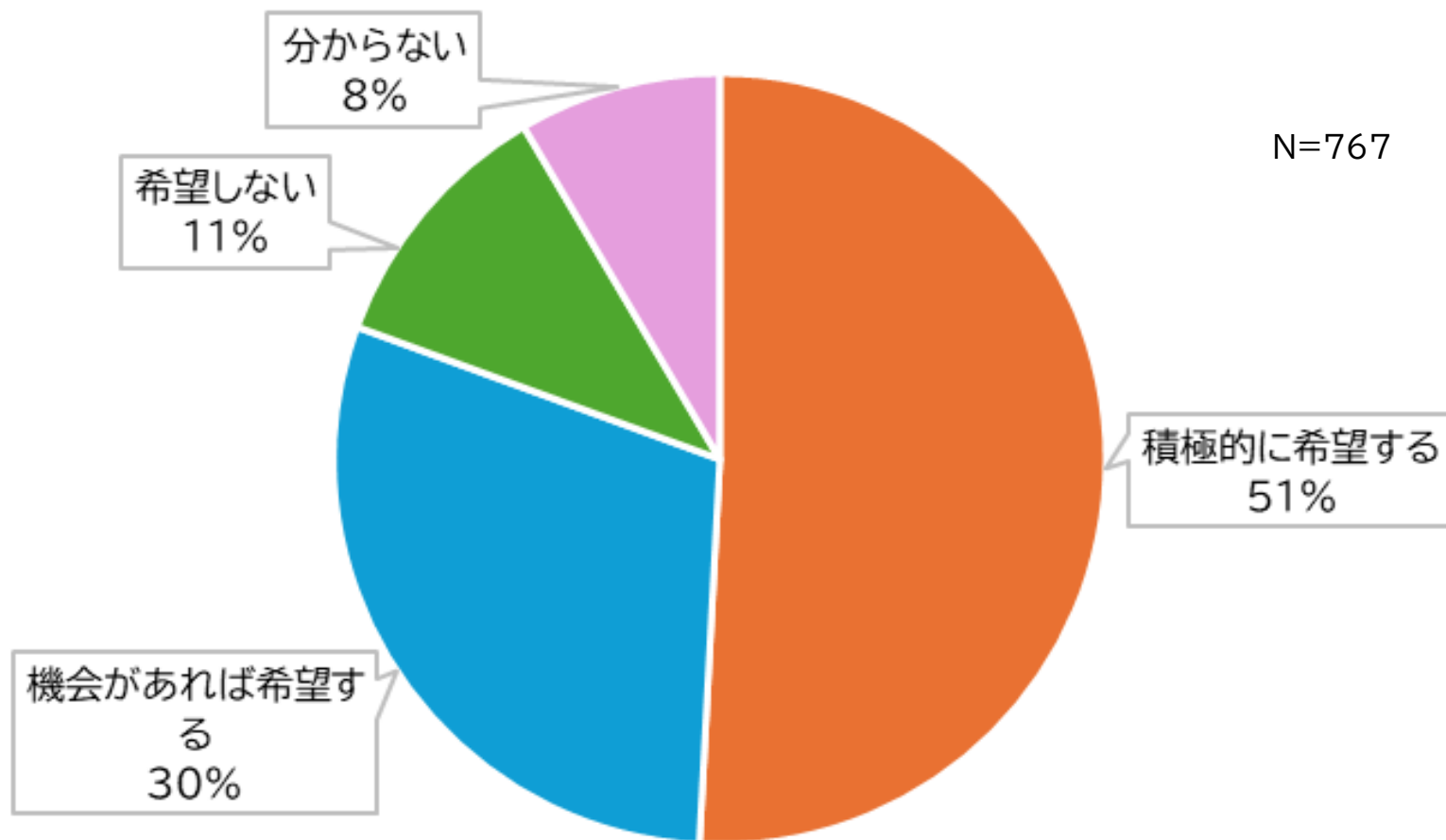
8. どのようなタイプの上司の下で仕事がしたいですか。(3つ選択)

- 「部下と積極的にコミュニケーションを取る」(60.2%)、「指示が明確である」(49.4%)の回答が多い。
- 「厳しく育ててくれる」(6.6%)、「任せてくれる」(8.5%)の回答は少ない。
→ 職場において互いにコミュニケーションを取りあえる、風通しのよい職場環境が重要。



9. 国際的な経験(留学・海外勤務など)に興味はありますか。

- 全体の81%が国際的な経験について、「積極的に希望する」又は「機会があれば希望する」と回答。
 - 総合職試験からの採用者の大多数が国際的な経験をすることを希望しており、国際的な業務に関心を有する。



10. 公務の魅力向上のために必要と考えられる取組はなんですか。 (複数回答)

- 公務の魅力向上に必要と考えられる取組は、「給与水準の引上げ」が78.2%で最多。
- 「超過勤務・深夜勤務の縮減」「フレックスタイム制やテレワークの活用推進、業務効率化等」の働き方改革の推進についても引き続き高い関心。
 - 公務職場の魅力向上に係る取組は引き続き重要。

